

---

# 新型コロナウイルス感染症による ステイホーム中を対象とした 共同住宅の音環境

---

研究代表者

理工学部 建築学科 教授 富田 隆太

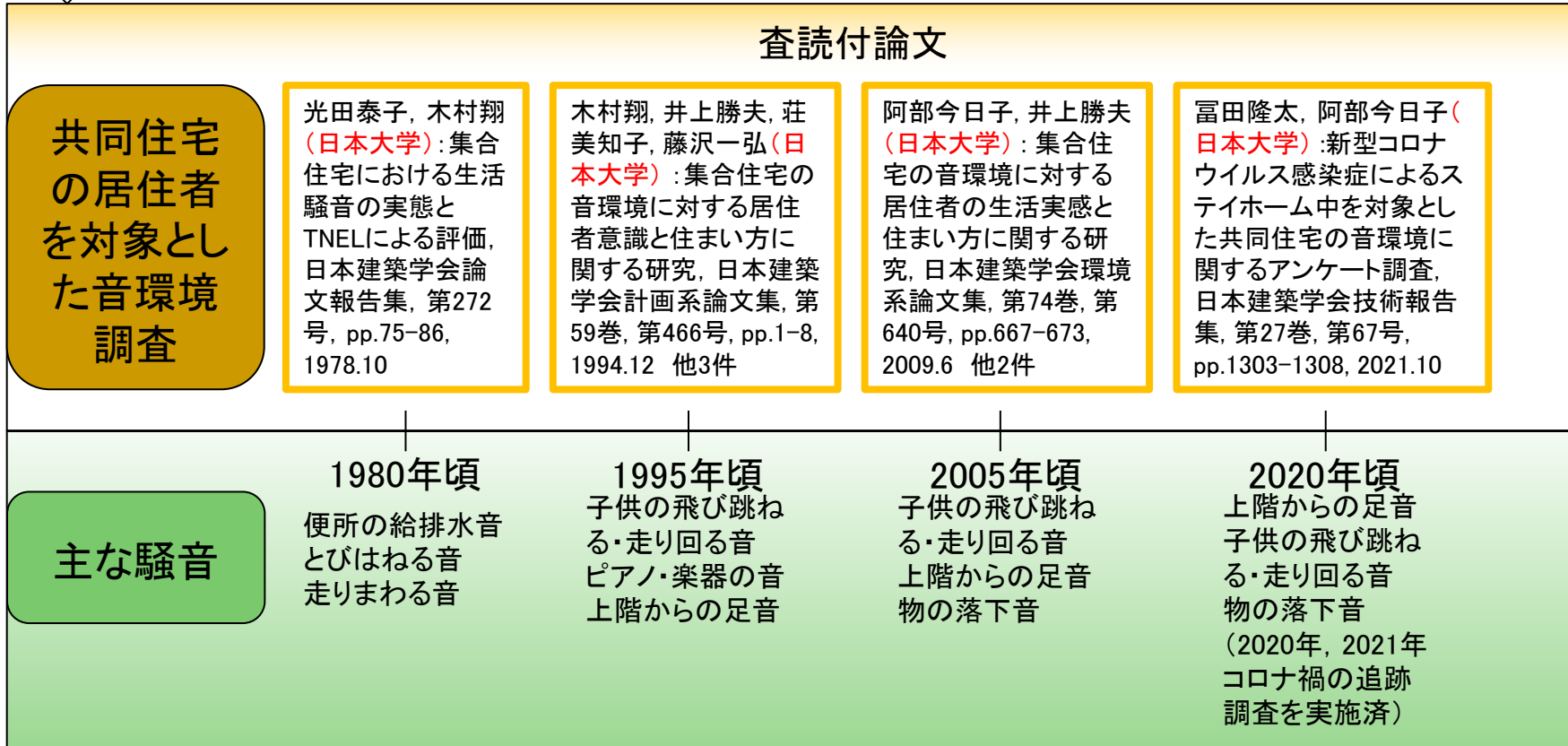
共同研究者

芸術学部 デザイン学科 非常勤講師 阿部 今日子

研究分野一覧: 建築学およびその関連分野

遮音性能技術 の向上	壁	建築物の遮音性能基準と設計指針 [第二版] (1997)	住宅の品質確保の促進等に関する法律 (2000)	集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方 (2016)	建築基準法30条改正
	窓	二重サッシ			
	床	スラブ厚150mm 二重床, 二重天井	スラブ厚200mm		
JIS A 1418(1978) 公団LH-55 公団LH-50 JIS A 1418-1,2(2000)					

⇄ 遮音性能の向上には、どの時代でも居住者意識が重要な役割を果たしている。



- 建築技術の向上により、改善されてきた騒音が多い中、依然として重量床衝撃音の指摘が高い。
- 社会環境, 社会状況により今後も騒音に対する意識は変化し続けることから、継続的な調査研究が重要である。

## 調査概要

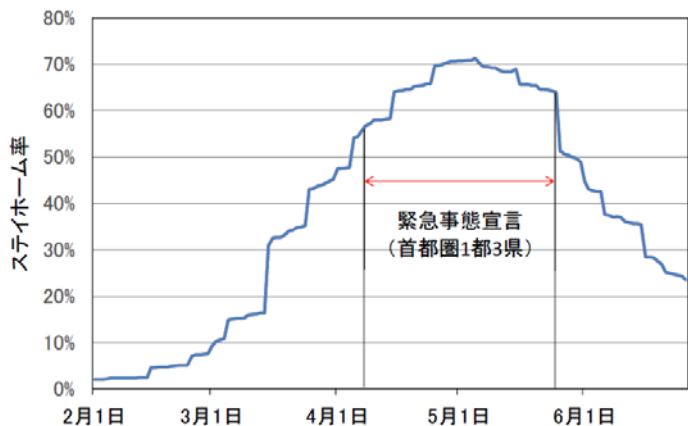
- 2020年5月に緊急事態宣言が解除された後、インターネット調査により実施した。
- 調査期間は、事前調査実施日が2020年6月18日～22日、本調査実施日が2020年6月22日～26日であった。
- 回答者は、男女については同程度であった。
- 有効サンプル数は1,106であった。

## 質問項目

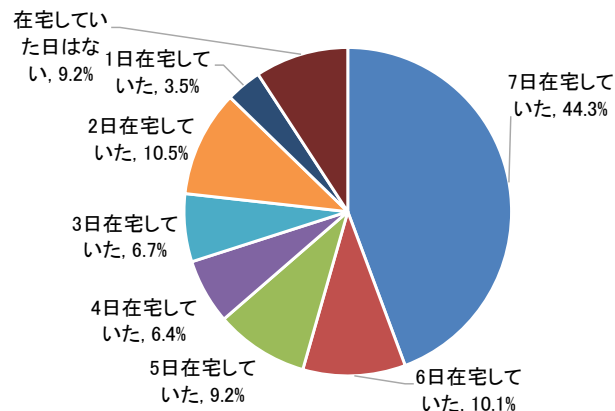
- 事前調査では、「建物の構造」、「間取り」、「家族構成」等を調査した。
- アンケート本調査項目は、「ステイホーム期間」、「住宅の各項目に対する満足度」、「音環境への意識」、「住まい方」、「教育」、「家族構成」、「周辺状況」等、選択式や自由記述を含めて41項目であった。

# これまでの研究成果

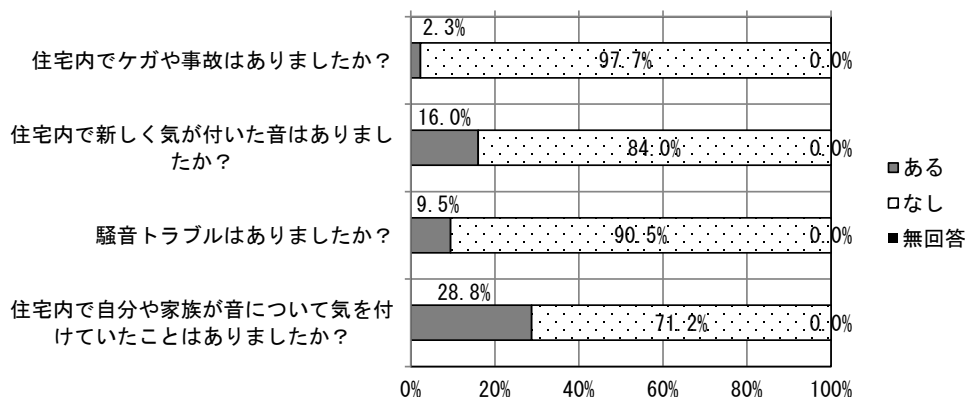
ステイホーム率 (n=1085)  
2020



ステイホーム中の在宅日数  
(n=1106)



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によるステイホーム中は、共同住宅全体の在宅率が高くなり在宅時間が長くなること等から、従来とは異なる騒音に暴露される可能性がある。  
このような環境は、**共同住宅の騒音の負荷状態としては、最大に近いと推定され、非常に貴重なデータと考えられる。**



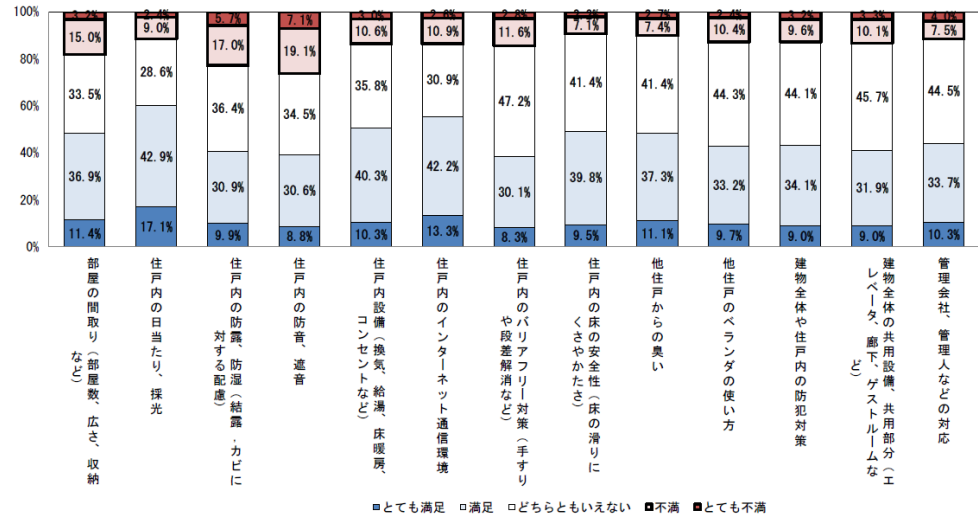
富田隆太, 阿部今日子: 新型コロナウイルス感染症によるステイホーム中を対象とした共同住宅の音環境に関するアンケート調査, 日本建築学会技術報告集, 27巻65号, p.1303-1308, 2021.10

富田隆太, 阿部今日子: 新型コロナウイルスによるステイホーム中の音環境アンケート調査 - 共同住宅の騒音トラブル防止に関する研究 -, 日本音響学会騒音・振動研究会, 2020.8

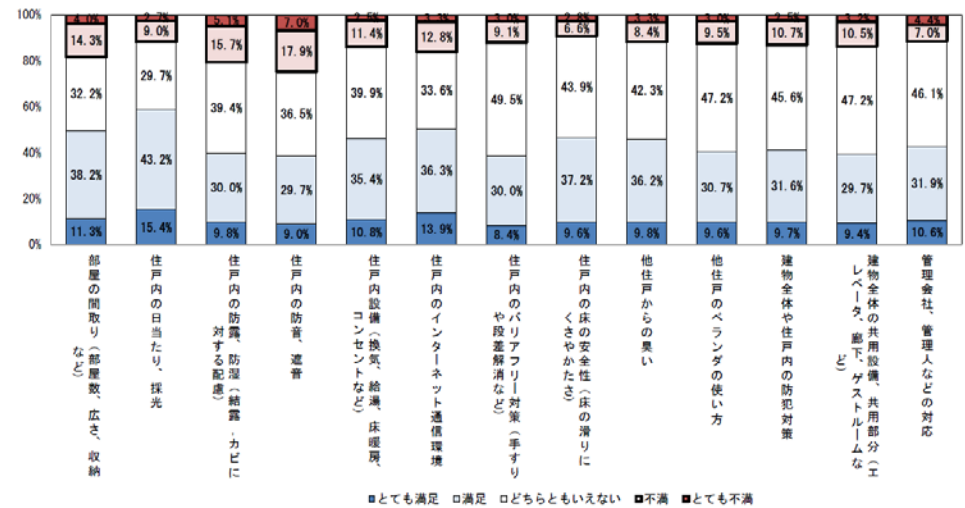
# これまでの研究成果

- 「不満＋とても不満」に着目すると、「住戸内のインターネット通信環境」の項目が最も大きな変化を示し2.5%増加していた。
- ステイホーム前，ステイホーム中に関わらず，「不満＋とても不満」の割合が最も多いのは，「住戸内の防音、遮音」の項目で約25%となっており，防音・遮音に不満を感じている様子が伺える。
- 全体的に，ステイホーム前とステイホーム中で変化がわずかだったのは，住宅に対する満足度というものは，長年生活の中で感じている度合で，一時的な環境変化で大きく変化するものではないためと考えられる。

## ステイホーム前の満足度合 (n=1106)



## ステイホーム中の満足度合 (n=1106)

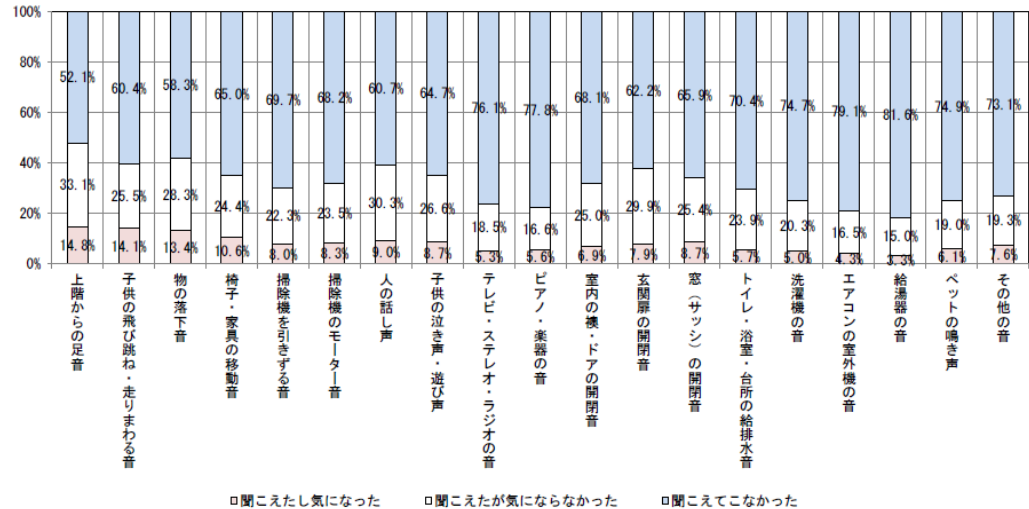


# これまでの研究成果

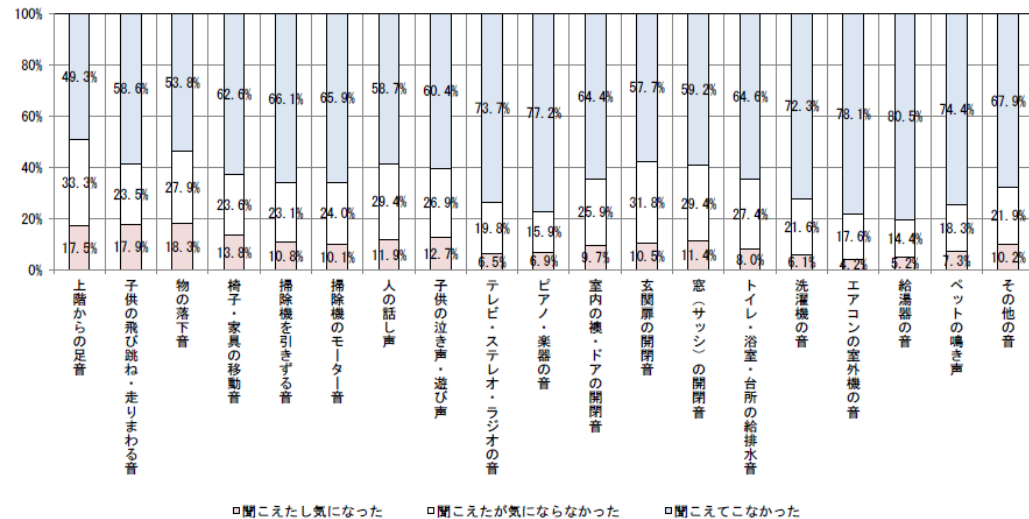
## ステイホーム前 (n=1106)

### 各種音源に対する聞こえる・気になるの結果

- ステイホーム中では、「エアコンの室外機の音」を除く、すべての音の種類で「聞こえたし気になった音」の指摘が上がっている。
- 「物の落下音」では、聞こえて気になるの指摘が5%増加した。
- 「子供の泣き声・遊び声」、「子供の飛び跳ね・走りまわる音」でも約4%増加しており、休校になり子供の在宅率が上がったことで、多少増加したものと推定される。

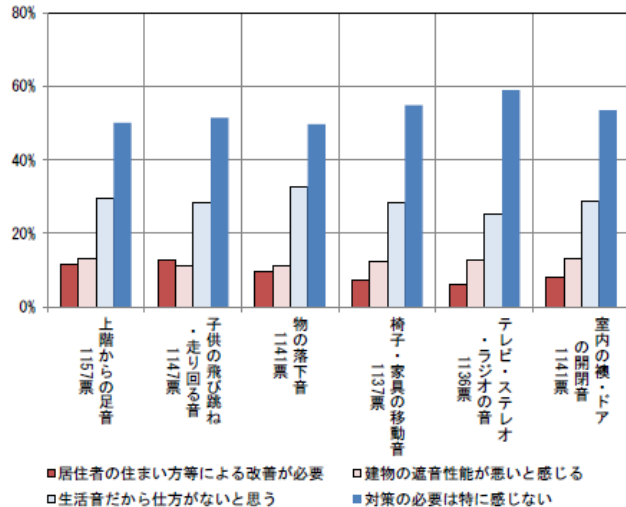


## ステイホーム中 (n=1106)

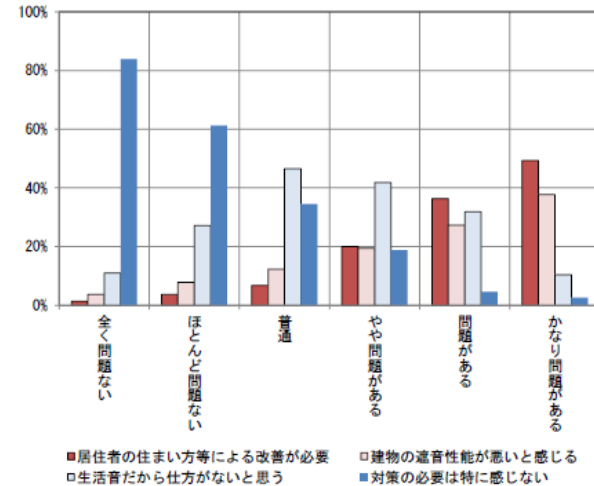


# これまでの研究成果

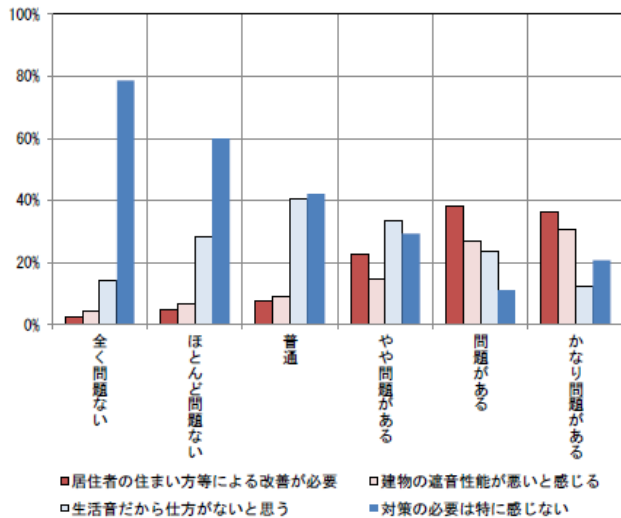
## 各種音源に対する対策方法



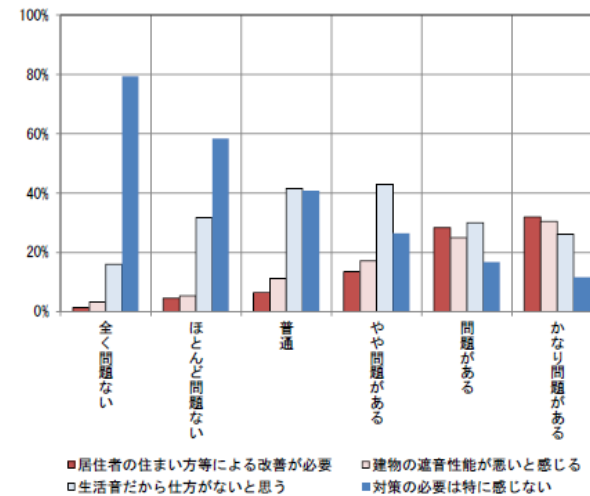
## 上階からの足音の問題意識と対策方法 (1052票)



## 子供の飛び跳ね・走り回る音の問題意識と対策方法 (1040票)



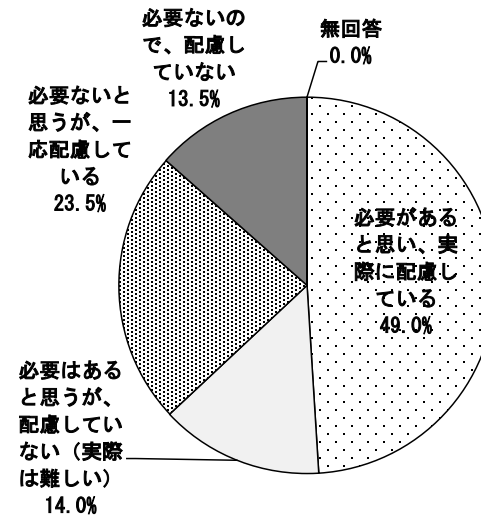
## 物の落下音の問題意識と対策方法 (1030票)



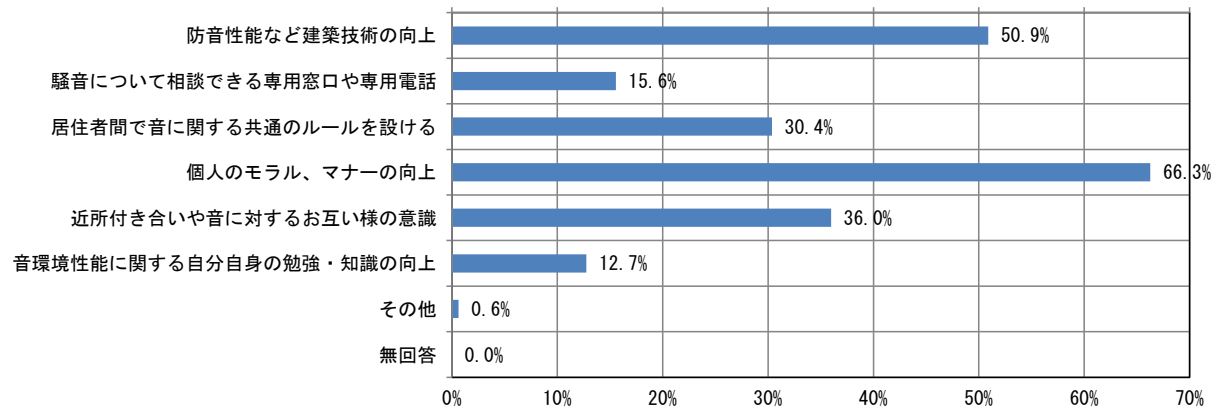
# これまでの研究成果

集合住宅では、自分が発生させる音に配慮する必要があると思いますか。

住まい方  
居住者が今後に望むこと

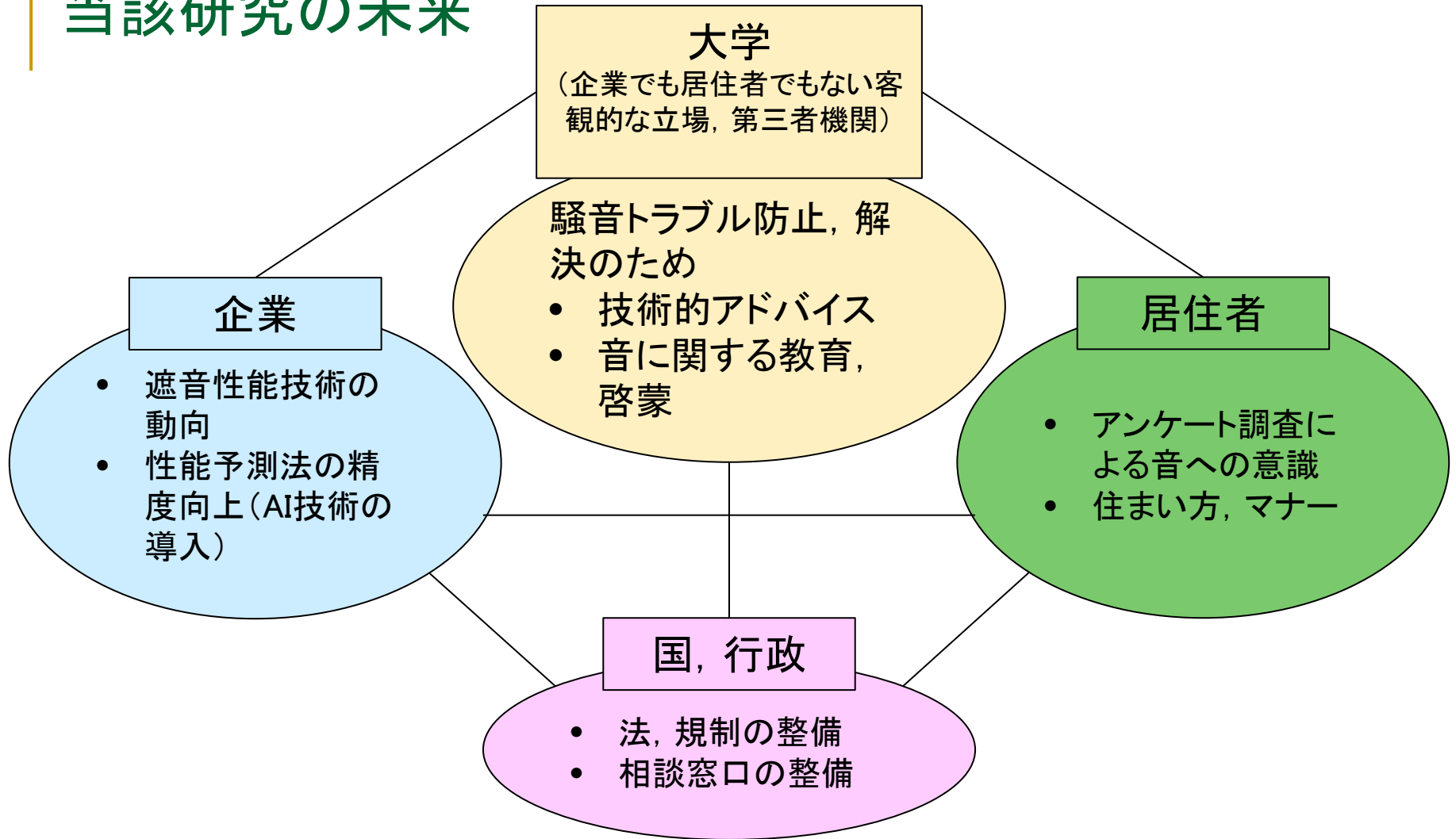


騒音トラブルを防止していくために何が必要だと思いますか。(複数回答可)





# 当該研究の未来



中立な立場である大学として, 国(行政), 企業, 居住者の橋渡しを行い, 騒音トラブルの防止・解決に努めていく。

---

## 研究者情報システムへのリンク先URL

<https://kenkyu-web.cin.nihon-u.ac.jp/Profiles/41/0004092/profile.html>

## 日本大学理工学部研究者情報

<https://www.cst.nihon-u.ac.jp/research/researcherinformation/researcher32/>

---